

北海道美幌町の大樹さん

特別住民番号1240

我が家の「大樹」

我が家の大樹は、昭和63年2月29日に生まれました。そう、4年に一回のうるう年生まれなのです。おかげで、名前も誕生日もすぐ覚えられ、誕生日が近づくと、いつ誕生日やってるの？とよく聞かれます。一応2月に生まれているので、2月28日にしていますが、4年に一度は、盛大な？パーティーです。



名前の由来ということですが、生まれる前から、どんな名前にしようかとあれこれ二人で考えていました。そして男の子だったらお父さんが、女の子だったらお母さんがつけるということに決まり、お父さんが考えたのが、「大樹」どういう考えで大樹になったというのは、大樹という名前が浮かんできたということです。初め、「たいき」ではなく、「ひろき」とよませるつもりでしたが、誰にでもすぐ読める名前…ということで、「たいき」になったわけです。大きな樹木のようにすくすくと育ててほしい…そんな願いも込められていました。その名の通り、今、我が家の「大樹」は、小学六年生で、足の大きさが26センチで、お父さんを抜かしてしまいました。背もぐんぐん大きくなり、お母さんを抜かすのも時間の問題となりました。名前の通り、今、すくすくと大きくなりつつある息子。まだ、大樹町に行った事がないので、家族4人で行ってみたいと思います。(父)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号1244

我が家の「大樹」誕生は、平成5年9月11日、名前の由来となる「杜の都」仙台においてでした。姉、直加小学二年生、兄、雄大幼稚園年中、そして2日後に39歳の誕生日を迎える父が、分娩室のドアの前で待ちかまえる中、3374gというやや覚えづらい体重で生まれてきました。「出産」という感動はとてつもなくあったのですが、三番目の子という事があり、私、母親として冷静に赤ちゃんの顔を見て、思いました。「どうしよう…。」だって「赤ちゃん」ではなく、「むらさきちゃん」でしたし、上の二人の子の時よりかなり、すごく全身が毛深く、よく中国で生まれる先祖返りの猿の赤ちゃんだったら「どうしよう。」だったのです。私は、出産の疲れの中、すぐ先生に、この事が大丈夫かどうか聞きました。そして、先生の「心配ないですよ。」の言葉を聞き、ひと安心出来たのです。5年ぶりに抱いた小さな赤ちゃんは、少しだきしめるとこわれてしまいそうな気がしてとても怖かったのを覚えています。入院中は順調でしたが、退院前日になって、赤ちゃんの黄疸の数値が上がり、光線療法の為に24時間保育器に入りとても心配させられました。また、一カ月検診の前に、かぜをひかせてしまい、母親としてなさけないやら、悲しいやら、心配で心配で何度も体温計で赤ちゃんの熱を計っていました。後でわかった事なのですが、鼻が弱く、かぜをひきやすい体質らしく、耳鼻科、小児科通いは、昨年ぐらいまでとても多かったです。それが、最近は鼻のアレルギーの薬を飲む回数も減り、心配も減った感じ。そのかわり、かわいいだけの「たいちゃん」が今は少し生意気「大樹」になって、将来は、大きな男になってほしいと思うのです。



写真は、大樹3カ月で、私達家族の親しい方達に送るポストカード用に写した物です。その大樹も、早いものでもうすぐ6歳です。(父母)

秋田県秋田市の大樹さん

特別住民番号1247

3540グラム、予定日通りの8月19日に大きな赤ちゃんが産まれました。



耳が大きく真ん中にしか髪がなく、キューピー人形のように。出産するまでは、性別を教えない方針の先生でしたので、名前は全く考えていませんでした。顔を見ながらどんな名前が似合うか考える毎日。そして大樹と書いてヒロキと命名しました。ヒロという漢字は種類が多く、悩みましたが、最初に考えた「大」に決め、「樹」は母親の名前から取りました。周りに安らぎを与え、信頼される人間、そして少々の失敗にもめげず、太陽に向かってすくすく育って欲しいという願いが込められています。「大樹」は数年に渡り、必ず上位に入る人気の名前。それだけ全国の人々に愛されている証拠だと思います。

今五歳、まだ細くて小さな樹ですが、これから色々な経験をし、心の年輪を重ねて心身共に大きな樹木に育って欲しいと思っています。(父)

静岡県富士市の大樹さん

特別住民番号1248

長男・大樹(だいき)が生まれたのは、平成9年7月20日、暑いさなかでした。結婚後13年目にして授かった、待望の息子です。

いざ生まれると、「さて、何と名付けようか。」と夫も私もいろいろと考えました。男の子だったら、自分の名の一字を取って、「樹」の字をつけたい、と前々から言っていた夫。そこで、あれやこれやと上に一字をつけてみては、夏だから夏樹だ、とか、私の父も加わって連日名前選びに頭を悩ませました。そろそろ退院も迫った日、父がふらっと立ち寄り、「だいちゃん”、”だいき”ってのはどうだ」と言い出しました。「いいひびきだな」と思ったのと、ちょうど同じ日に夫も「大樹(だいき)にしたい」と言っていましたので、なんと珍しい、二人が同じ名前を言い出すなんて、と思ったのをよく覚えています。夫の名は「一樹(かずき)」ですので、自分よりも大きくなってほしい、という願いも込めて「大樹」を選んだそうです。



大樹町の大樹さん募集の話は、たまたま母が新聞の切抜きで教えてくれましたが、息子と同じ名前の町があると知って、なんだかとてもうれしくなり、応募しました。これから息子が成長して行って、いつか自分の大事な人や友達と一緒に、大樹町を故郷のように訪れるようになってくれたらいいと思います。(父母)

北海道北広島市の大樹さん

特別住民番号1256

最初の子だから、親として高望みをしてしまったんだろう。親より大きな男になってほしいと思って大きな名前をつけました。写真の字を書いてくれた人はきっと名前の様な人間になるものだと言ってくれたが、どんな人間になっていくのか。

(大樹の名付け親から、父準一)



福島県北島町の大樹さん

特別住民番号1259

僕が、この「大樹」という名前をはっきりと意識し始めたのは、小学校に上がってクラスの友達に「かいじゅう(怪獣)」というあだ名をつけられて、もっとなんか違う名前だったらよかったのになあと思った時がその最初だったと思います。その後、担任の先生が変わる度に必ず読み方を尋ねられるけれど(「たいき」、「だいき」、「だいじゅ」等々)、一人の例外もなく良い名前だとひとしきり感心するのを見て、「どうやら自分のこの大樹という名は素晴らしい名らしいぞ」と思うようになりました。



でも、僕がこの名の素敵なところに本当に気付いたのは、「大」、「樹」のそれぞれの漢字の持つ意味を習ったときでもなく、「名は体をあらわす」という格言を知ったときでもなく、また、ガールフレンドに名前を優しくささやかれた時でもありませんでした。

それは大学時代、外国の友達に自己紹介の際に「僕の名前はタイジュです。大きな、大きな木という意味なんだ。」と言ったら、その友達が「大きな木なんて、とても魅力的な名前だね。」とうらやましそうに言いました。この時、僕の中でそれまでは単に音の集合でしかなかった「た・い・じ・ゆ」が「大樹(大きな木)」になりました。

このことがきっかけで僕の名付けのいきさつが気になって両親に尋ねると、父の話では、昭和43年に仕事の関係で大樹町に常駐していて、その緑濃い自然豊かな環境と、地元の人達のおおらかで、ざっくばらんな人柄に接していただく感動した上、その町の名が「大樹」だなんて、その時父が抱いていた町の印象にピッタリだったので、「もし自分に男の子が生まれたら、この町の名をもらって名付けよう」と、強く心に決めたそうです。そして、翌年5月9日、この世に沢山の子供が生まれ、少なくともそのうちの一人の男の子は「大樹」と名付けられました。

それが、僕です。

北海道森町の大樹さん

特別住民番号1262

現在、ひろきは3歳。名前をつけるときには、とても苦労しました。生まれる直前まで女の子だろうと私達夫婦は思っていたので、男の子だとわかった時には、いろんな名づけの本を読みあさりしました。

子供が生まれる1ヶ月前に私は実家へ帰り、1月16日に出産。さて、名前はどうかと、夫と電話で長々と話し合いになりました。この名前はどうかと、あの名前は…と、何日たってもお互いに納得する名前が決まりません。出生届けの提出もせまってきた頃、夫が、大樹と書いてひろきと呼ぶのはどうかと電話で言ってきました。大きな樹でひろき、というのはなかなかかっこいいではないか。名字とも合うし。ということで、名前が決まったのでした。その時は、私は大樹町があることをすっかり忘れていたのです。



ある時、テレビを見ていると、夫が「ひろきの町だよ」と言うので見てみると、ニュースで大樹町の事をやっていて、私は子供と同じ名前の町がある事を知ったのでした。今では、大樹町の事がニュース等に出る度に、「ひろきの町だよ」と教えています。子供は、まだよくわかっていないようですが、もう少し大きくなった時に、家族で大樹町へ行ってみようと、話しています。

あせって考えてつけた名前ではあるけれど、文字どおり、大きな樹のように丈夫で、どんな事にも負けない強い人間に育ててほしいと思っています。そして、この名前でもよかったと言ってくれると親としてうれしく思います。(父母)

埼玉県浦和市の大樹さん

特別住民番号1272

今年の3月に元気な男の子が産まれました。

女の子だと思っていたので、名前は全然考えていませんでした。産まれた当時2,632gと病院で一番小さく、ミルクを飲む量も少なめ。大きく育ってくれるかどうか不安で…。大きくたくましく育て欲しいという願いをこめて大樹と名付けました。漢字を先に決め呼び方は「ひろき、だいき、たいき、たいじゆ…」等々悩みましたが最後は多数決で「ひろき」に。



今では願いどおり、大きく健康に育っています。大樹町という町があるのは知りませんでした。とても親近感があります。今度一度訪ねてみたいものです。(父)

東京都港区の大樹さん

特別住民番号1274

大樹のように、すくすくと大きくのびやかに育つよう命名しました。(父)



1987年(昭和62年)の夏のある日。出産予定日を控え、「そろそろ名前を決めなければ」と思案していましたところ、以前、どこかで聞いた覚えのある名前“ダイキ”って響きがいいな!! 漢字は“大樹”なかなかいいぞ、と思っていた矢先のこと。テレビで“日本一、星のきれいな町、北海道大樹町”という番組を放送しているのを偶然に見て、これだ!!と思いました。



そして、8月8日、午後4時、体重2,804グラムの元気な男の子が誕生。命名“大樹”(実はこの時点でほかの名前はもちろん、女の子の名前なんて全然考えていなかったのです)。

姓が青原なので

“青い空、そして、広い平原に立つ

大きな樹のようにすくすくと育ててもらいたい”

という、親の願いを母子手帳にも記載しております。

そしてこの度、縁あって“大樹町特別住民”になれた事を、嬉しくとても名誉な事だと感謝しております。

大樹町を第二の故郷と思い、いつか是非一度訪れてみたいと思っております。(母)
